豊庄だより

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

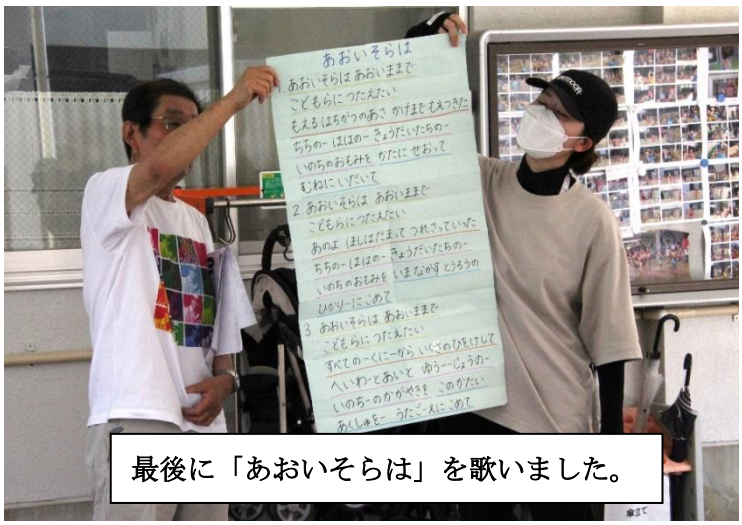
第 768 号 2023 年 8 月 28 日

8 月は、8 月 6 日、8 月 9 日、8 月 15 日と、戦争に関する日が続きます。豊庄保育園では毎年この時期、平和学習をしています。今年は私がこの時、休みを取っていたため、時期がずれましたが、8 月 21 日の合同朝の会で行いました。

はじめに私が、次のような話をしました。

今日は、「へいわ」と「せんそう」と「いのち」について話します。私たちの国は、今から 80 年くらい前、アメリカ、中国などの国と戦争をしていました。この戦争で、日本の人も相手の国の人も多くの人がなくなりました。今日のお話は、戦争が終わった 78 年前の出来事です。78年前といってもピンとこないかもしれません。皆さんのおじいさん・おばあさんのお父さん、おかあさんの時代です。

1945 年 8 月 6 日、8 時 15 分。場所はヒロシマ。青い空から一機の飛行機が原子爆弾を落としました。ピカッと光り、その後、ドンと音がし、爆風とともに一面火の海となりました。とても暑く、多くの人が水を求めて川に行きましたが、息絶えてしまいました。続いて8月 9 日 11 時 3 分。今度はナガサキに原子爆弾が落とされました。



最後に「あおいそらは」を歌いました。

ここからは、長崎出身の小田先生の話です。先生のおじいさんのお父さんとお母さんの体験談でした。ひいおじいさんは、原爆が落とされたとき長崎市にいて、「水をください」と川に駆け寄る全身にやけどを負った人々を目にされたそうです。ご自分は、仕事で爆心地から離れたところにいて助かったそうです。

この話を聞きながら、「いのち」のつながりを感じました。私の父も戦争に行っていました。中国の満州です。そこで敗戦を迎えたのですが、その後、シベリアに抑留されました。父が存命の時、聞き取りをしたことがあります。最近、『ラーゲリからの遺書』と言う映画が話題になりましたが、父からの話はそのままでした。

もし父が極寒の地シベリアでなくなっていたら、私はこの世に存在していません。

保育園の階段を上がったところに女性の画があります。父とともに命をつないだ「戦友」が帰国後、描かれた絵です。